

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で12人（内訳：学校医代表（小児科）1人、大学病院医師（がん専門医・小児科医）1人、大学病院臨床心理士1人、がん経験者1人、校長1人、教職員1人、市町教育委員会1人、県医療保健部1人、県教育委員会事務局4人）

- ・他の組織との連携：県医療保健部、三重大学医学部附属病院をはじめとした県がん診療連携に係る病院、がん患者支援団体

2. 開催時期、検討内容

7月 第1回協議会…がん教育の推進に向けた事業の検討

1月 第2回協議会…がん教育の推進に関する事業の検証と次年度の展望

② 教育委員会としての取組

- ・県内教職員、外部講師（医療関係者、がん経験者等）及び行政を対象に、がん教育講習会を実施した。県作成の指導教材をもとに行うがん教育の授業の進め方や、がん教育で配慮が必要な事項について、あるいはがん患者への理解と共生についての講義をいただき、がん教育の具体的な方法を学ぶ内容とした。
- ・講習会と同様の対象で、埼玉医科大学教授の儀賀理暁氏を招聘し、がん教育授業を実施した。がんの知識やがん予防等の指導にとどまらない、いのちの大切さを学ぶ授業で、子どもたちは真剣に取り組んでいた。授業後の講演会では、授業の解説だけでなく、これまでに会われたがん患者さん方の生き方についても触れながら、子どもたちと一緒に学びながらすすめていくがん教育について講演を行っていた。
- ・県教育委員会の作成した指導教材について、データ資料の更新や、配慮すべき表現について協議会において検討し、改訂を行った。
- ・「外部講師と取り組むがん教育授業」実施校に、事前事後アンケートを実施した。学校や市町教育委員会の負担感の軽減のため、アンケートフォームにて実施した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県医療保健部において、県がん診療連携に係る病院及びがん患者支援団体の協力により、外部講師依頼先リストを毎年更新している。
- ・本リストを活用して、「外部講師と取り組むがん教育授業」を、県内の小・中・高・特別支援学校に募集し、取りまとめを行った。がん教育授業の事前打ち合わせは、申込のあった学校、所管する教育委員会とで行い、授業のねらいや配慮すること等を確認した。確認した内容等について、県医療保健部の協力を得ながら、県教育委員会が外部講師との窓口となり、連絡して取り組んだ。
- ・医療関係者の外部講師の派遣では、医師だけでなく看護師も動員され、医師とは違った視点での講義がされた。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

市町及び県立高等学校で応募のあった学校において、「外部講師と取り組むがん教育授業」を実施した。

学校名	時数	教科領域	外部講師	学年	本時のねらい
桑名市立 精義小学校	1	体育科 保健領域	がん経験者	5	健康と命の大切さを学び、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつことができる。
津市立 安濃小学校	1	体育科 保健領域	がん経験者	6	・がん経験者の体験談等を聞いて、健康と命の大切さについて学ぶ。 ・がんに関する知識や患者の接し方について学ぶ。
津市立 八ツ山小学校	1	体育科 保健領域	がん経験者	6	がんとは、どんな病気なのか。
津市立 黒田小学校	1	体育科 保健領域	がん経験者	6	がんについて正しく理解するとともに健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようになる。
伊勢市立 豊浜西小学校	1	体育科 保健領域	医師 看護師	6	がんが身近な病気であることや、がんに関する基本的な知識を身につけ、自他の健康と命の大切さについて学ぶ。
伊勢市立 豊浜東小学校	1	体育科 保健領域	医師 看護師	4 5 6	・がんについて正しく知ることによって、その予防につなげる。 ・がんについて正しく知ることによって、万一自身や身内等が、がんになったときに前向きにとらえ行動できる。 ・保護者や地域の方にも参観していただき、学校の取組を理解していただくとともに、参観者自身の糧にしてもらいたい。
津市立 美杉中学校	1	保健体育科 保健分野	がん経験者	1	がんの発生の仕方や要因と、自分でできるがんの予防には適切な生活習慣を身につけることが有効であることを理解できるようにする。
津市立 南が丘中学校	1	保健体育科 保健分野	がん経験者	3	がんに関する理解と正しい知識を身につける。また、がんやがん患者に対する偏見をなくし、自他の健康と命の大切さについて学ぶ。
津市立 久居中学校	1	保健体育科 保健分野	がん経験者	2	・子どもたちががんについて学び、正しく理解し、自他の健康と命の大切さについて学ぶ。 ・がんを予防するための方法や、検診など早期発見につなげる。
津市立 西郊中学校	1	保健体育科 保健分野	がん経験者	3	がんという病気について、発生のメカニズムや発生要因、治療内容等を学習した上で、実際にがんの治療、闘病を経験された方のお話を伺い、がんになって考えたこと、感じたこと、またがんになる前となってからで自分の生活や気持ちで変化したこと等についてお話を聞かせていただき、がんとうがん患者さんの理解を深めるとともに、自分の生き方や命の大切さについて学ばせたい。
津市立 南郊中学校	1	保健体育科 保健分野	がん経験者	2	がんが身近な病気であることを知り、がんの予防、早期発見の重要性について正しく理解する。また、がん経験者の方からのお話を聴くことによって、がん患者や家族等のがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深め、自他の健康と命の大切さ、自分らしく生きることについて学ぶ。
津市立 芸濃中学校	1	保健体育科 保健分野	がん経験者	3	2年生時に保健体育科（保健分野）において、単元「健康な生活と疾病の予防」について学習した。他人事に捉えている生徒がいる。がんを経験された方を講師として招き授業を展開することでがんを身近なものとして意識し、生徒自身の将来的な予防につなげさせたい。
県立 四日市工業 高等学校	1	特別活動 学級活動	がん経験者	3	国民の2人に1人はかかるといわれているがんについて、講話を通して、がんに関する基本的な知識と予防について学ぶ。また、経験者の話を聞いて自分に置き換えて考えたり、身の回りにいる闘病中の人への接し方について考えたりする機会とする。

県立 四日市商業 高等学校	1	特別活動 学級活動	医師	1	医療関係者の講演を通じて、健康と命の大切さについて学び、がんに対する正しい知識と予防、がんに対する理解を深めることを目的とする。
県立 久居農林 高等学校	1	特別活動 学級活動	医師	3	がんに関する理解と正しい知識を得て、卒業を前にした生徒たちの将来が、より一層安心した生活となることを目的とする。

〈事例紹介〉

①八ツ山小学校

【授業内容】

- ・「がん」という病気の印象
- ・講師の自己紹介
- ・ピアサポーターの「ピア」の意味→同じ立場という意味
- ・がんについての知識　がんの患者数、がんのしくみ、がんの進行について、がんの治療法など
- ・講師自身の体験
困ったこと、体の痛み、心の痛み、がん患者の願い、家族への思い、今の生活など
この夏に行った場所、みんなと同じ生活をしている。
- ・この授業で知ってほしいこと
予防の話→5つの気をつけてほしいこと（たばこ、酒、食事、運動、体重）
早期発見で治る病気になってきている。→（健康診断、がん検診）
- ・何か一つでも二つでも覚えておいてほしい。
- ・家族に今日の話をしてほしい。
- ・地元のいいところ教えて
- ・児童からの質問や感想

②四日市工業高等学校

【授業内容】

基礎的知識

- ・ピアサポートとは、がんで悩んでいる方と同じ立場でサポートするボランティア活動
- ・がんは体中のどこにでもできるが、心臓だけは、心筋は細胞が分裂しないため、がんになりにくいと言われている。
- ・日本で一番多いのは大腸がんで、がんの原因については、細菌やウイルス、遺伝の要素もある。
- ・がん検診は、肺がん、乳がん、子宮頸がん等ある。おうちの人に受けるよう、皆さんも大人になったら受けるよう、家庭で話し合ってください。

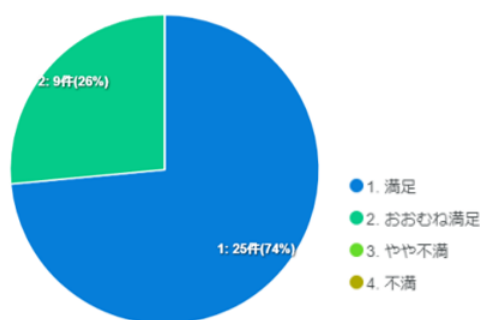
自身の経験

- ・がんがわかったのは20歳、大学2年の春
 - ・がんになった時の心境の描写
 - ・22歳で治療は終了した。
 - ・伝えたいことは3つある。
- ① 「がんの不安」落ち込みと前向きを繰り返す。（レジリエンス）極端な判断はやめた方がいい。例えば、貯金を使い果たしたり、死んでしまいたいと思ったりすること。
 - ② 「優しさ」がんばれは言わない方がいい。ゴールのあるものではない。ただ、普通に接してほしい。
 - ③ 「今」子どもができた。いいこともわるいことも思ってもみないタイミングでやってくる。生きていくってそういくこと。明日がくることを当たり前と思わない。



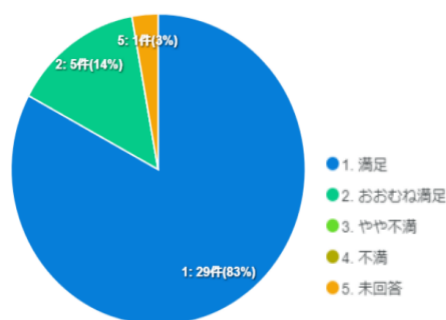
2 事業の達成度について

- ・がん教育講習会では、教職員 23 名、外部講師及び外部講師に興味がある方 10 名、行政 2 名、その他 1 名の計 36 名が参加した。事後アンケートでは左グラフのとおり、参加者の 100%が「満足」「おおむね満足」の回答だった。



参加者からは「授業で概論は学べるけれど、経験者の方からの話は、身近に感じ、学びが深まると感じた。」「本講習会を通してがん教育の概要が分かった、PowerPoint の指導教材をぜひ活用したい」「がん教育を学校で取り扱うようになってきた経緯や小・中・高で抑えるべきポイントについて再確認できた」等の声があった。

興味がある方 7 名、行政
事後アンケートでは右
「おおむね満足」の回答
参加者からは「がん教
で活用できることを知
きたいと感じた。」「がん
っている様子に感銘を
教育委員会として所管



- ・がん教育講演会では、教職員 53 名、外部講師及び外部講師に 6 名、その他 1 名の計 67 名が参加した。グラフのとおり、参加者の 97%が「満足」であった。

育は、生徒指導や人権教育など様々な分野
り、これからも養護教諭として勉強してい
教育にがん患者経験者（外部講師）が関わ
受けました。」「津市の実践報告を聞いて、
の学校へどう広げていけばいいか参考にな

った。」等の声があった。本会は集合型での開催後、収録した動画を教職員向けに配信し、参加できなかった教職員に周知した。

- ・「外部講師と取り組むがん教育授業」について、昨年度はがん経験者、医療関係者あわせて 11 校の実施であったが、今年度は、がん経験者による 11 校、医療関係者 4 校の計 15 校での実施となった。
- ・「外部講師と取り組むがん教育授業」実施校の児童生徒に、事前事後アンケートを実施した。アンケートフォームでの送信に切り替えたことで、集計・グラフ化したものや感想一覧を、学校ごとにリアルタイムで用意することができた。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- ・がん教育講習会では、県作成のがん教育教材を使用した外部講師を招いての授業体験等、参加者には好評を得ている。今後も、若手教職員や外部講師に興味をもつ方を中心に、広く周知を図りたい。
- ・がん教育講演会においては、児童生徒に何を伝えるか、そのために外部講師とどのような授業をつくるか、といった授業づくりをテーマとして実施したい。また、講演会についても、より多くの教職員が参加できるよう内容や実施時期、会場等の工夫をしていく。
- ・外部講師の派遣については昨年度より実施校が増えたが、もっと多くの学校で外部講師を活用させたい。ただ、報償費等の負担の面から、一定の学校数までとなることが課題である。
- ・市町教育委員会の所管する小中学校において、外部講師と取り組むがん教育授業を広げていくために、好事例を実践発表にて周知していく。
- ・外部講師（がん経験者）については、今年度のように研修の機会を設け、関係団体に情報共有するなどをし、リスト団体の増員について工夫を施していきたい。
- ・県作成の指導教材について、モジュール化をしたり、内容を更新したりしながらより利用しやすくする。